



会員企業サポート室だより

会員企業サポート室長 濱田 哲一

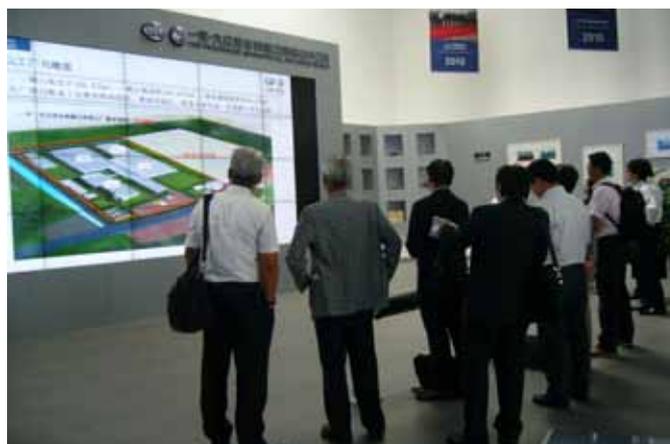
三位一体で一汽フォルクスワーゲン・佛山工場を視察

中国自動車工業協会によると、2014年上半期における中国の自動車生産台数は前年同期比9.6%増の1,178万3,400台、販売台数は同8.4%増の1,168万3,500台でした。このうち乗用車の生産台数は、同12.1%増の970万8,500台、販売が同11.2%増の963万3,800台でした。なかでもMPVとSUVが好調で、伸び率ではMPVが同55.4%増（88万2,200台）、SUVが同37.1%増（182万3,400台）と、全体の伸び率を大きく上回りました。

近年、広東省への日系以外の自動車メーカーの進出が増えています。一汽フォルクスワーゲン（以下VW）は、2013年秋から広東省・佛山工場を稼働、長安プジョー・シトロエン（PSA）も2013年秋から深セン市に工場を稼働しました。

7月18日に、総領事館、ジェトロ広州、広州日本商工会の三位一体活動の一環として、一汽VW佛山工場を視察しました。日系自動車部品展示会（JAPPE）を毎年主催しているジェトロ広州のアレンジで実現したものです。VWから人数制限があり、田中会長をはじめ役員12名、総領事館、ジェトロ広州あわせて計19名が参加しました。

集合場所の中信広場から大型バスで走ること約1時間、広大な敷地に建設されたVW佛山工場に到着。車が展示されているショールームで工場概要についてPPTで説明を受けた後、電動カート3台で工場内を視察、最後に質疑応答と約1時間のプログラムでした。見学を終えた頃に、VWのディーラー研修団が入ってきました。ディーラーの研修や取引先部品企業の視察のための見学コースとなっているようです。



（ショールームでの工場概要説明）

敷地は1期が100.39万㎡（計画建築面積45.5万㎡）、2期とあわせて合計166.3万㎡。

敷地内には、プレス、溶接、塗装、組立の4つの製造エリア、物流エリア等を備えている。従業員は、現在約5,000人で平均年齢は25歳、2期とあわせて約10,000人の計画。Golf（A7）とAudi（A3）を生産し、年間生産能力は30万台で、2期とあわせて最終的に年間60万台生産の計画。操業は3直（7h+7h+6h）で、20日/月、250日/年。現在、700～800台/日だが、今年末には1,200台/日となる。

工場周辺 5km 以内に、エンジン工場（50 万㎡）、部品園（60 万㎡ ※ 8.87㎡の部品園区は既にオープン）、物流園区（38 万㎡）、完成車停留場（21.5 万㎡）、もう一つの部品園区（46.7 万㎡）が隣接、工場から 20km の場所に余剰地も確保されている。

10 兆ワットの太陽光エネルギーを発電し、生活污水・工業排水ゼロ・エミッションを実現し、全国で初の緑色工業建築三つ星を獲得しています。溶接エリアは、約 850 台の溶接機械を設置、同社中国工場で初めての完全溶接ラインを導入し、自動化率は約 8 割とのこと。レーザー溶接のため、溶接工程で一般的にみられる火花が散っていないのが印象的でした。組立エリアは約 200 の工程で 3 車種を同時に生産しています。同じ工場内に部品倉庫エリアを有し、工場内でのジャスト・イン・タイムを行っているとのこと。

工場の屋根が高く、ラインとラインの間隔（幅）も広く、仕切りに透明ガラスが使用されており、全体的に清潔で明るい工場という印象を持ちました。エコにも配慮しているとのこと、ラインの横に自転車置き場があり、従業員が工場建物内を自転車で移動していました。また、事務棟にはコンビニエンス・ストアがあり、若い従業員に対する配慮も感じられました。

